

室蘭工業大学理工学部における学習成果の評価の方針

令和元年 10 月 10 日 教育システム委員会決定

室蘭工業大学理工学部における教育課程の学習成果については、学位授与方針に定める以下の3つの資質や能力を最終的に達成するように構成された、各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

ア. 「専門性と展開力」

専門分野の知識と技術を体系的に身に付け、それらを駆使して（専門性の獲得）、様々な場面において課題を発見し、実現可能な解を見出し、社会に生かす能力（展開力）を身に付ける

イ. 「強靭性と俯瞰力」

理工学の基礎知識と複数の専門における基盤的な学問の基礎知識及び情報・データを扱う基礎知識と技術を確実に身に付ける（強靭性の獲得）とともに、社会の課題を俯瞰的に見る能力（俯瞰力）を身に付ける

ウ. 「社会性とコミュニケーション力」

自らが継続的に学習し、豊かな人間性の基礎となる教養（社会性の獲得）と多様な人とコミュニケーションをとり協働する能力（コミュニケーション力）を身に付ける

1. 教育・評価方法

区分	教育方法	評価方法
専門性と展開力	2年次から4年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③ゼミナール及び卒業研究については、活動内容、論文、発表により評価する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
強靭性と俯瞰力	1年次から3年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
社会性とコミュニケーション力	1年次から3年次にかけては、次の教育課程を編成する。 ・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。 ・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。 ・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。	①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。 ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。 ③授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。 ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、TOEIC等の外部試験を評価に活用する。

2. 成績評価方法の明示

授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

3. 成績評価基準

得点 (100点法により採点)	評語	評価		G P (評点)
		達成度レベル	合否判定	
90点～100点	秀	到達度目標をほぼ完全に達成し優秀である	合格	4
80点～89点	優	到達度目標を十分に達成し優秀である		3
70点～79点	良	到達度目標を概ね達成している		2
60点～69点	可	到達度目標を最低限達成している		1
59点以下	不可	到達度目標を達成していない	不合格	0

4. GPA (科目成績平均値)

合格における4段階の評価のほかに、成績を上記のとおり点数化(GP)し、学生自身による学習成果の達成状況の確認、大学による順位付けの参考データとして活用する。

5. 成績情報の開示

学生に対して、学務システムを利用し、授業科目ごとの評語とGP、学期ごとのGPA、累積GPAを開示し、学生自身による確認を可能とする。

6. 評価の点検

成績評価の結果は、評価分布等を使用して、教育システム委員会において定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7. 適用

この方針は、令和元年度入学者から適用し、上記2から6の方針については、平成27年度から平成30年度の入学者にも準用する。